

自己評価報告書

平成23年 4月 1日現在

機関番号：32675

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20710194

研究課題名(和文) アフリカ熱帯雨林居住者の食物資源利用の様態と生活様式類型の再検討

研究課題名(英文) Rethinking livelihood and food resource use among forest dwellers in the African Rainforest

研究代表者

安岡 宏和 (YASUOKA HIROKAZU)

法政大学・人間環境学部・講師

研究者番号：20449292

研究分野：アフリカ地域研究、生態人類学

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：歴史生態学、ドメスティケーション、エスノサイエンス、狩猟採集社会

1. 研究計画の概要

本研究では、熱帯雨林における食物資源利用の特性を解明し、アフリカ熱帯雨林居住者の生活類型の再検討をおこなう。第一に、森林居住者による野生食物資源と農作物の利用を、意図的ないし非意図的に人間活動が森林環境にかかわる過程として同一の視座から記述・分析する。それをもとに人間活動と森林環境とのインタラクションのなかで食物資源が形成され、維持されるという点において、両者には森林食物資源としての共通項があることをしめす。第二に、狩猟採集民および農耕民を対象として、食物資源獲得への労働投入と、それら食物資源の流通・消費のあり方を記述・分析する。それをもとに狩猟採集民的な生活様式と農耕民的な生活様式との最大の相違は、利用する食物の生物的性質や、労働の先行投入の有無そのものではなく、食物資源の運用をめぐる社会関係のなかで、先行する労働投入の事実がどのように意味づけられているか、という点にあることをしめす。

2. 研究の進捗状況

2008年8月に、カメルーン東南部の熱帯雨林地域にあるZ村に住むバカ・ピグミーの人びとを対象として、以下の3点に関する現地調査を実施した。第一に、調査地域の植生と、それに関する人びとの知識に関する調査をおこなった。第二に、人びとの食物利用、とくに野生の森林資源の利用の調査をおこなった。第三に、野生堅果類の分布と堅果から

の油の生産に関する調査をおこなった。

これらの調査結果をふくめて、バカ・ピグミーの森林資源利用と、その資源のアベイラビリティ(利用可能性)、および地域の森林景観との相互作用について、以下の研究成果をまとめた。

Human Ecology 誌と *African Study Monographs* 誌に論文を投稿し、査読をへて掲載された。また、学術図書『森棲みの生態誌』(木村大治・北西功一編)に3編の単著論文と1編の共著論文が掲載された。

さらに、研究成果の一部をカナダで開催された第12回国際民族生物学会にて”Semi-domesticated yams (*Dioscorea* spp.) in a national park, southeastern Cameroon”との演題にて報告するとともに、これまでの研究成果とあわせて『バカ・ピグミーの生態人類学—アフリカ熱帯雨林の狩猟採集生活の再検討』と題する図書を執筆・刊行した。

その他、本研究と関連する論文が二つの図書(Daniel S. Bates et al. eds. *Human Ecology: Contemporary Research and Practice*, Robert Whallon et al. eds. *Information and Its Role in Hunter-Gatherer Bands*)に採録され、刊行された。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

理由：印刷物として、和文学術図書1編(単著)、英文査読誌論文2報(単著)、和文学術図書に採録された和文論文5報(単著3、共著1)、英文論文2報(単著1、共著1)の成果が得られている。

4. 今後の研究の推進方策

これまでの研究成果をまとめる過程であきらかになった今後の研究を要する点として、以下の3点をあげることができる。第一に、資源利用と森林景観との相互作用を解明するためには、複数の時間軸および空間スケールのもとでの相互作用およびその歴史を把握し記述するための、新しいモデルが必要となること。第二に、現在、当該地域にてさかんにおすすめられている自然保護計画において、住民の生活と森林保全の両立を達成するために、上記のような人びとの資源利用と生活環境との相互作用の総体に関する理解を、どのように有効に活用できるか、という研究の応用面における課題。第三に、おなじ地域に住んでいる狩猟採集民と農耕民の資源利用における差異を、自然保護計画にどのように反映することができるのか、という問題である。つまり人びとの多様性をふまえたうえで、森林保全と住民の生活と文化との折り合いをつけるためには、両者の資源利用の様態および土地利用やその権利のあり方がどのように異なっているかについて、さらに精緻な情報にもとづいて比較検討したうえで、両者におけるコンフリクトを調停するための枠組みを構築しなければならない。最終年度となる次年度には、これらの点について研究をすすめていく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

① Yasuoka, H. 2009. Concentrated distribution of wild yam patches: Historical ecology and the subsistence of African rainforest hunter-gatherers. *Human Ecology*, 37(5): 577-587. (doi: 10.1007/s10745-009-9279-5.)
査読有

② Yasuoka, H. 2009. The variety of forest vegetations in southeastern Cameroon, with special reference to the availability of wild yams for the forest hunter-gatherers. *African Study Monographs*, 30(2): 89-119. (<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/79539>)
査読有

[学会発表] (計2件)

① Yasuoka, H. 2010/5/11. Semi-domesticated yams (*Dioscorea* spp.) in a national park, southeastern Cameroon. 12th International Congress of Ethnobiology. Tofino, British Columbia, Canada.

② 安岡宏和. 2010/3/13. GPS を利用して描く Baka Pygmies の森林利用の季節変異と多様性. 京都大学アフリカ地域研究資料センターシンポジウム: コンゴ盆地森林住民の文化と現代的課題. 京都大学.

[図書] (計7件)

① 安岡宏和. 2011. 『バカ・ピグミーの生態人類学—アフリカ熱帯雨林の狩猟採集生活の再検討』京都大学アフリカ地域研究資料センター/松香堂書店. 224p.

② Ichikawa, M., Hattori, S., and Yasuoka, H. 2011. Environmental knowledge among central African hunter-gatherers: types of knowledge and intracultural variations. In Whallon, R., Lovis, W. A., and Hitchcock, R. K. (eds.) *Information and Its Role in Hunter-Gatherer Bands*. Cotsen Institute of Archaeology. pp.117-132 (校正段階)

③ Yasuoka, H. 2010. The wild yam question: Evidence from Baka foraging in the northwest Congo Basin. In Bates, D.S., & Tucker, J. (eds.) *Human Ecology: Contemporary Research and Practice*. Springer. pp.144-154.

④ 安岡宏和. 2010. ワイルドヤム・クエスチョンから歴史生態学へ—中部アフリカ狩猟採集民の生態人類学の展開. 木村大治・北西功一(編)『森棲みの生態誌』京都大学学術出版会. pp. 17-40.

⑤ 安岡宏和. 2010. バカ・ピグミーの生業の変容—農耕化か? 多様化か? 木村大治・北西功一(編)『森棲みの生態誌』京都大学学術出版会. pp. 141-163.

⑥ 安岡宏和. 2010. バカ・ピグミーの狩猟実践—罾の普及とブッシュミート取引の拡大のなかで. 木村大治・北西功一(編)『森棲みの生態誌』京都大学学術出版会. pp. 303-331.

⑦ 木村大治・安岡宏和・古市剛史. 2010. コンゴ民主共和国・ワンバにおけるタンパク質獲得活動の変遷. 木村大治・北西功一(編)『森棲みの生態誌』京都大学学術出版会. pp. 333-351.

[その他]

ホームページ

<http://www.i.hosei.ac.jp/~yasuoka/>